

大阪府の地震

2024 年 7 月

目 次

近畿地方及びその周辺地域の地震活動	1
-------------------	--------

震央分布図と断面図

概況

近畿地方で震度 1 以上を観測した地震	2
---------------------	--------

府県別震度一覧表と震央分布図

- ・大阪府で震度 1 以上を観測した地震

※ 7 月に大阪府で震度 1 以上を観測した地震はありませんでした。

地震一口メモ No. 230	3
----------------	--------

8 月 26 日は「火山防災の日」

* 「大阪府の地震」は月 1 回発行し、近畿地方及びその周辺の地震活動状況をお知らせするとともに、適宜、社会的に関心の高い地震について解説を行います。また、「地震一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。

* この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

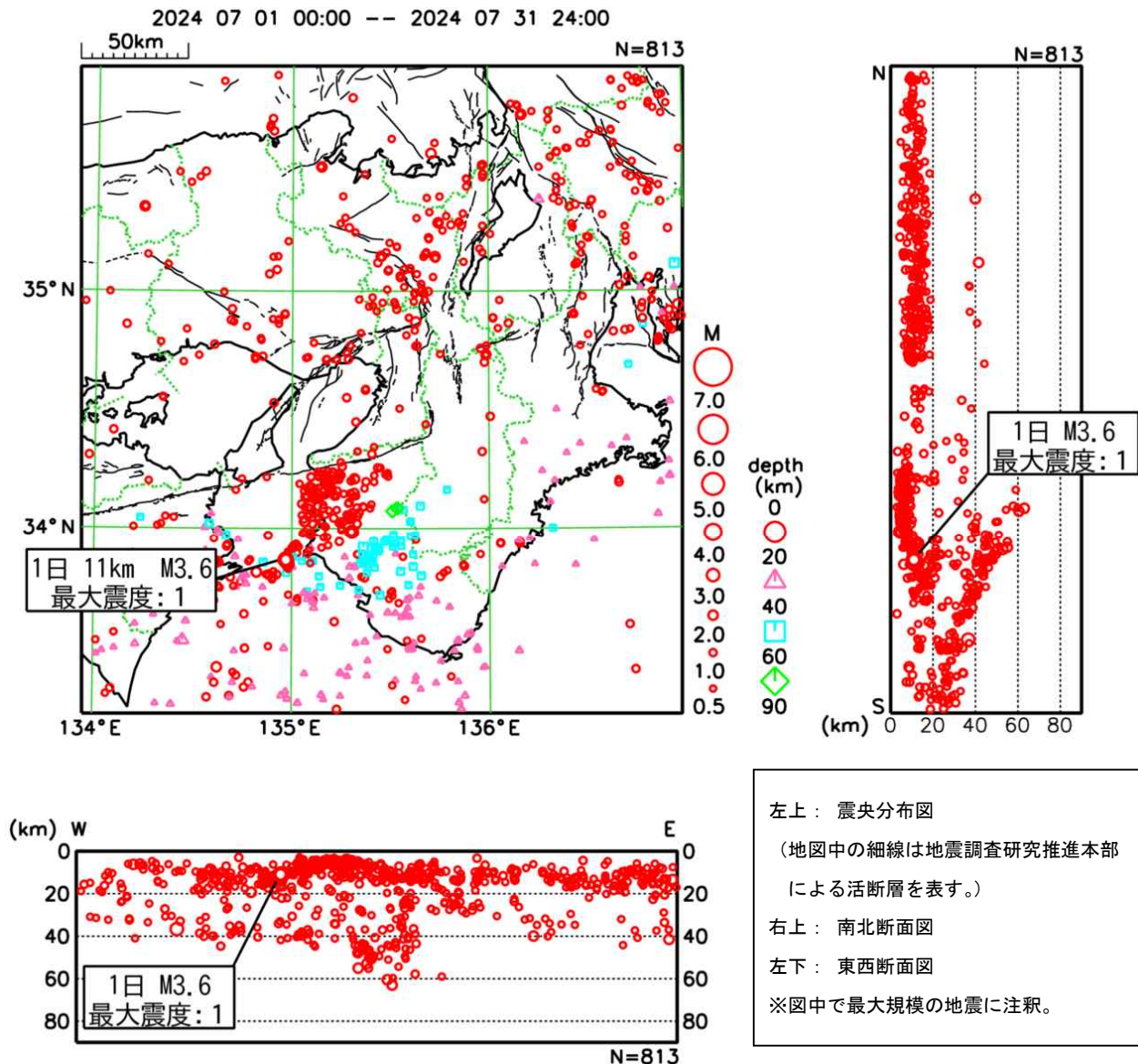
* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

* この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用しています。

大阪管区気象台気象防災部地震火山課

近畿地方及びその周辺地域の地震活動

(2024 年 7 月 1 日～31 日)



概 況

7 月の上図の範囲内における M (マグニチュード) 2.0 以上の地震は 36 回 (前月 36 回) でした。このうち最も規模の大きかった地震は 1 日の紀伊水道の地震 (深さ 11km、M3.6) で、この地震により、和歌山県、徳島県で震度 1 を観測しました。

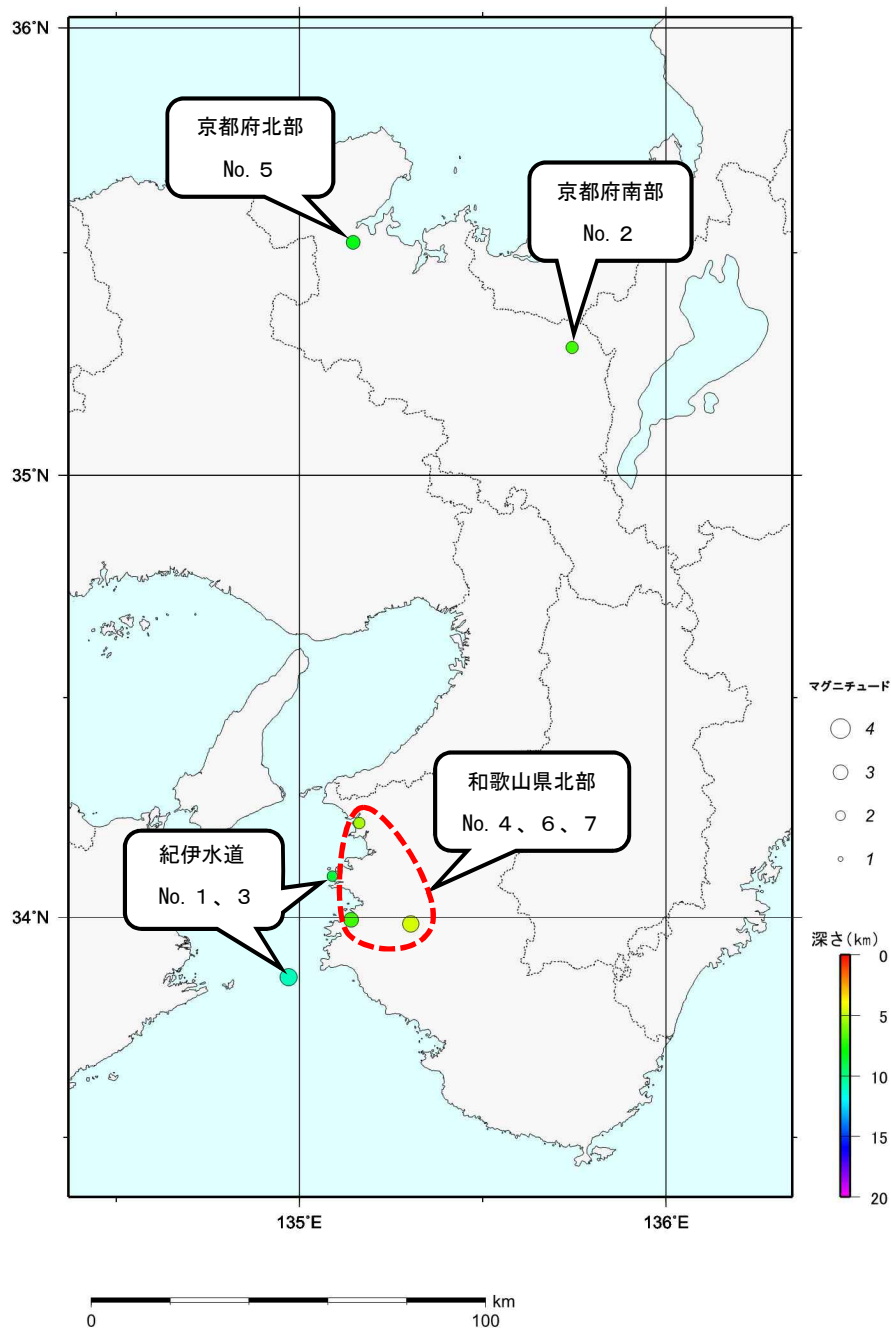
7 月に大阪府で震度 1 以上を観測した地震はありませんでした (前月 1 回)。また、7 月に近畿地方で震度 1 以上を観測した地震は 7 回 (前月 11 回) でした。

近畿地方で震度 1 以上を観測した地震

府県別震度一覧表

2024年7月1日～7月31日

No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ	M	最大震度	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
	年月日	時分秒		度分	度分	km								
1	2024/7/1	00:43:41	紀伊水道	33° 51.9'	134° 58.2'	11	3.6	1						1
2	2024/7/10	03:55:31	京都府南部	35° 17.2'	135° 44.6'	7	2.5	1		1				
3	2024/7/17	14:31:06	紀伊水道	34° 05.7'	135° 05.4'	9	2.2	1						1
4	2024/7/21	00:12:52	和歌山県北部	33° 59.6'	135° 08.4'	7	3.0	2						2
5	2024/7/21	20:18:40	京都府北部	35° 31.3'	135° 08.8'	8	2.9	1		1		1		
6	2024/7/22	19:05:06	和歌山県北部	33° 59.1'	135° 18.2'	5	3.4	2						2
7	2024/7/28	23:57:31	和歌山県北部	34° 12.9'	135° 09.7'	5	2.4	1						1



震央分布図
(注釈の番号は上の表の番号に該当します。)



8月26日は「火山防災の日」

火山災害に備えるきっかけとするため、「火山防災の日」が制定されました。2024年8月26日は、制定後初の「火山防災の日」です。8月26日となったのは、明治44年のこの日に浅間山に日本で最初の火山観測所が設置され、器械を用いた近代的な観測が始まったことに由来します。火山災害から身を守るためには、危険な場所を事前に確認することや、事前の速やかな避難が重要です。火山に登る際には、事前に以下の確認をお願いします。

① 噴火警戒レベルに対応する危険な場所の確認

自治体が火山防災マップを作成している場合、噴火警戒レベルに対応した危険な場所が記載されています。噴火警戒レベルとは、火山ごとに警戒が必要な範囲ととるべき防災対策を5段階に分けて設定しているもので、火山活動に応じて気象庁が発表します。

② 避難場所や避難場所までの道順

③ 気象庁の発表する噴火警報などの情報の入手方法

また、噴火のおそれがある場合、危険な地域では事前の避難が必要です。地元の市町村の指示があった場合には、それに従ってください。万が一噴火した場合は、近くの山小屋や岩陰などに急いで避難し、ヘルメットを被って頭を守り、火山灰を吸わないよう、マスクやタオルで口をふさぎましょう。

ヘルメットを準備しましょう

前触れなく噴火する可能性があります。万が一の噴火や岩場での落石に備えてヘルメットを準備しましょう。

危険な場所に立ち入らないで!

窪地や谷には火山ガスが溜まっている可能性があります。立入禁止の場所には、絶対に立ち入らないようにしましょう。

もしも噴火したら…

岩陰などに急いで避難しましょう。ヘルメットをかぶりマスクやタオルで口を塞ぎましょう。

気象台や市町村が発表する情報に注意しましょう

噴火警戒レベルのキーワード

- Lv.5 避難
- Lv.4 高齢者等避難
- Lv.3 入山規制
- Lv.2 火口周辺規制
- Lv.1 活火山であることに留意*

※ヘルメットを準備しましょう

気象庁が発表する噴火警報・噴火予報などを確認してください。

[火山登山者向けの情報提供ページ](#)

火山災害への備え（リーフレット「火山への登山のしおり」より）

「火山防災の日」特設サイト

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/kazanbosai/index.html>

火山登山者向けの情報提供ページ

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/map_0.html

噴火警戒レベルの説明

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/level_toha/level_toha.htm